

# 衆議院農林水産委員会ニュース

平成 26. 10. 22 第 187 回国会第 3 号

10 月 22 日（水）、第 3 回の委員会が開かれました。

## 1 農林水産関係の基本施策に関する件

・西川農林水産大臣、あべ農林水産副大臣、中川農林水産大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

### 津 島 淳君（自民）

- ・青森県が策定した「青森県ロジスティクス戦略」を国と協働して確立しようとする事について、農林水産大臣はどのように考えているのか。
- ・飼料用米の安定的な販売先の確保に向けて国はどのように支援していくのか。
- ・バイオマス利用の施設園芸について国はどのように支援していくのか。

### 稲 津 久君（公明）

- ・収入減少影響緩和対策（以下「ナラシ対策」という。）について標準的収入の 2 割を超えた減収にも対応できるよう制度の見直しを検討すべきではないか。
- ・米の直接支払交付金について、早期に作付面積等の確認を行い支払時期を早めることを検討すべきではないか。
- ・日豪 E P A において「将来の見直し」とされた小麦及び砂糖について、豪州はどのような関心を持っているのか。

### 鷺 尾 英一郎君（民主）

- ・収入保険制度の検討が進められている中、ナラシ対策をどのように改善していく考えか。
- ・現在、米について需要に応じた生産ができていると考えているのか。
- ・農業者戸別所得補償制度を復活させ、いわゆる岩盤を補償することについて、農林水産大臣はどのように考えるのか。

### 玉 木 雄一郎君（民主）

- ・農業者戸別所得補償制度について、農林水産大臣はどのように評価をしているのか。
- ・ナラシ対策の加入要件の緩和等を行う予定はあるのか。
- ・日豪 E P A 締結により豪州産飼料用小麦が民間貿易に移行し無税化されることによる飼料用米需要への影響について、どのように見込んでいるのか。

### 鈴 木 望君（維新）

- ・米価の下落が中山間地域における限界集落の衰退と深く関わっていることについて、農林水産大臣はどのように認識しているのか。
- ・限界集落にとって深刻な問題である鳥獣被害について、国はどのような対策を講じているのか。
- ・鳥獣被害対策として、野生鳥獣肉の流通システムを整備して、市場メカニズムを利用する取組が重要ではないか。

### 林 宙 紀君（維新）

- ・今後米の過剰が生じた場合、どのような対策を講じるつもりなのか。
- ・米穀安定供給確保支援機構が買い入れた平成 25 年産のうち 25 万トンと古くなった政府備蓄米との交換により政府の支払が生じたことを、農林水産省 H P により分かりやすく掲載すべきではないか。
- ・「農業・農村全体の所得倍増」とはどのような意味なのか。また、現状の所得と目標とする所得はいくらなのか。

### 村 岡 敏 英君（維新）

- ・米価下落の状況の中で、ナラシ対策を含め今後の農家の経営支援について農林水産大臣はどのように考えているのか。
- ・米価下落により、新規就農者が減少することを懸念するが、どのような支援を行うのか。
- ・飼料用米の生産拡大をどのように図っていくのか。

### 桜 内 文 城君（次世代）

- ・平成 26 年産米の概算金が下落している原因についてどのように考えているのか。
- ・平成 30 年産米からを目途とした行政による生産数量目標の配分廃止に向け、ロードマップを作成する必要があるのではないか。
- ・今後の農協の在り方について、生産者のための農協とい

う観点から、株式会社化も視野に検討すべきではないか。

## 畑 浩 治君（生活）

- ・ T P P 交渉について、農林水産大臣はどのような交渉結果となれば衆参両院の農林水産委員会決議が守られたとの評価が得られると考えているのか。

- ・ ナラシ対策について、平成 27 年産から要件緩和を行うことによって、加入者数はどのように変化すると考えているのか。
- ・ すう勢的に主食用米の価格が下落する中、政府は、再生産可能なコストの補償等の対応は必要ないと考えているのか。